

賃 金， 物 価， 家 計

賃金を毎月勤労調査による産業別常用労働者の平均月間給与（定期，臨時を含む）をみると，33年の全産業平均は19 184円で，前年に比して3.3%，男女別では男子は5.3%増加し，女子では2.5%の減少を示し，また女子は男子の平均給与の44.5%でかなりの格差がある。

以上の賃金を産業別にみると男女共に電気，ガス，水道業が最も高く，つぎに金融，保険業，鉄鋼業の順となり，最低は木材，木製品製造業で，いずれも業種および企業の大小によりかなりの開きがある。

物価を千葉市の消費者物価指数（30年＝100）の総合でみると，33年は前年に比し0.6%上昇したが，これを費目別にみると，主食と雑費が上がつて被服費，光熱費，住居費が下つている。なお33年の小売物価地域差指数を全都市＝100としたものによると，総合0.3，食料0.2といずれも千葉市が高く，一方東京＝100にしてみると両者とも低い。

千葉市勤労者世帯の一世帯当りの収入，支出額では実収入で35千円，実支出で32千円となつている。また千葉市の全世帯平均の一カ月消費支出は昭和26年には14 202円，29年は22 961円，31年23 310円，33年26 707円といずれも上昇している。なお消費支出の飲食費の占める割合（エンゲル係数）は26年で54.6%，29年46.0%，31年は45.7%，33年44.2%と徐々に下り，反面，住居費や光熱費，被服費，雑費等の占める割合が多くなり，都市の生活程度が少しづつ向上していることがわかる。